

環境を「考える」

山形大学から社会へ伝える「環境コミュニケーション」

山形大学農場フェスティバル

附属やまがたフィールド科学センター（鶴岡市高坂）にて「山形大学農場フェスティバル～できたての黄金米かましてケ!!」を開催しました。大学農場を地域のみなさんにもっと知ってもらい、交流を図ろうと2012年にスタートし今年で6回目。当日は曇り空が広がり天候が心配されましたが、学生や家族連れなど約1,100名の来場者があり、会場は大盛況でした。毎年人気の「炊きたて新米の振り舞いコーナー」では、昼前に長蛇の列ができ、用意された農場産「はえぬき」約800食分はあっという間になくなりました。会場では他にも、農場で生産された季節の農産物販売や音楽ステージ、親子で楽しめる体験コーナー、本学部教員による特別講演会などさまざまな催しが行われ、秋の一日を満喫しました。

イベント概要

開催日時：2017年10月7日（土曜日）

参加対象：一般市民、地域住民他



当日のイベント開催状況



第8回農林業・食料・環境を考える山形県民シンポジウム～私たちの挑戦～

本シンポジウムは今回で8回目を迎え、初めて庄内地域での開催となりました。シンポジウムでは、各校の代表生徒が意見発表やプロジェクト発表を行い、本学からは大学院農学研究科生物生産学専攻の吉野晃弘さんが「コントラクターを介した耕畜連携の取り組み」について、同じく農学研究科生物資源学専攻の青木聡樹さんが「キノコに含まれる成分について」発表しました。また、鶴岡市枝豆農家「治五左工門」15代目の石塚寛一氏、有機農業・農家レストラン民宿経営の小野寺紀允氏、クロちゃん農場5代目黒澤大輔氏をパネラーに迎え、「ココロ・オドル・農林業」をテーマに農業にかける思いを語り、参加した生徒・学生らの未来にエールを送りました。

当シンポジウムは、農林業を学ぶ学生・生徒にとってさらなる理解を深める機会となりました。今後も大学・高校が連携を深め、学生・生徒間の交流を深めていけるよう取り組んでいきます。

イベント概要

開催日時：2017年11月17日（金曜日）

参加対象：各校生徒・学生・教職員、一般

参加人数：約250名



農学部・藤井教授による基調講演



パネルディスカッション



本学大学院生による発表

環境を「考える」

山形大学から社会へ伝える「環境コミュニケーション」

平成29年度エリアキャンパスもがみタウンミーティング

新庄駅内にある最上広域交流センター「ゆめりあ」にて、平成29年度山形大学エリアキャンパスもがみタウンミーティングを開催しました。このタウンミーティングは、エリアキャンパスもがみの活動報告及び今後の最上地域の発展について考えることを目的に毎年開催しており、今年度は昨年度に引き続き、「もがみの未来遺産を創造する」のテーマのもと、学生や地域の方々など約40名が参加しました。第1部の各種報告の後、第2部のグループ討論では、現在のもがみの課題と未来のもがみについて活発な議論が交わされ、個性豊かなアイデアが発表されました。

イベント概要
開催日時：2017年11月11日（土曜日）
参加対象：関係自治体、一般
参加人数：約40名



鮭川村教育委員会教育課・五十嵐氏



田舎体験塾つのかの里事務局
安良氏



本学人文社会学部学生の発表
「マルシェ本活プロジェクト」



本学農学学生の発表
「伝承野菜栽培と郷土料理」

山形大学農学部・東北森林管理局連携シンポジウム

本シンポジウムでは、東北森林管理局朝日庄内森林生態系保全センター所長 相澤義継氏が「朝日庄内地域におけるボランティア活動について」と題して講演し、センターが行う森林保全活動の取り組みについて紹介しました。また、山形大学農学部の菊池俊一准教授が「森づくり・森の保全における市民参加の意義」をテーマに話題提供をしました。引き続き行われたパネルディスカッションでは、相澤氏のほか県内で森林保全活動を行う「小国の自然を守る会」井上邦彦氏、「ひらた里山の会」代表理事佐藤忠智氏、「万里の松原に親しむ会」会長 三沢英一氏をパネリストにお迎えし、各団体の森林保全活動について紹介しながら、活動における世代継承や技術習得の方法などについて意見交換をしました。

イベント概要
開催日時：2018年2月2日（金曜日）
参加対象：一般
参加人数：約100名



東北森林管理局朝日庄内森林生態系
保全センター所長・相澤氏



「小国の自然を守る会」井上氏



本学農学部・菊池准教授による話題提供

環境を「考える」

山形大学から社会へ伝える「環境コミュニケーション」

2017年度公開講座(環境関連)

植物の生きざまを訪ねて～動かずに生きる植物の秘密を探る～

動かない植物がどのように生きているのか、環境・歴史・虫・森林などの観点から4名の教員が講演しました。当日は、10代から80代の述べ70名ほどの方に参加いただきました。植物という身近なものに関するテーマとあって、参加者は皆、熱心に講演を聞いていました。特に質問コーナーでは自家栽培や農業にも関連した質問が飛び交い、活気にあふれる時間となりました。参加者からは「わかりやすく説明してくれてとても面白かった」「身近な植物なのに知らないことが多くあって、興味深かった」など多くの感想が寄せられ、大変好評でした。

イベント概要

開催日時：2017年10月28日～29日

参加人数：約70名



講演2 横山教授
「時間とともに変わる～植物の進化の歴史を探る～」



研究室見学では冷蔵庫の中身まで！

環境保全型農業の新時代～少ない資源で栽培する次世代農業～

農学部では公開講座「環境保全型農業の新時代～少ない資源で栽培する次世代農業～」を全5回にわたり実施しました。講座には47名の参加があり、高校生から高齢の方まで幅広い年齢層の方が受講しました。講座では、本学部の安全農産物生産学コースの教員・客員教授および技術職員がそれぞれ行う専門的な研究について、スライドやテキスト、実験器具を用いてわかりやすく紹介しました。受講生からは「毎年楽しみにしている」「初心者でもわかりやすく説明していただきとても楽しく受講できた」などの感想が寄せられました。修了式では半数以上の出席者に修了証書が授与され、今年度の講座が終了しました。

イベント概要

開催日時：2017年5月27日～6月24日（全5回）

参加人数：47名



5月27日開催 粕淵名誉教授
「無肥料・無農薬で米は多収できるか～10年間の取り組み～」



6月10日開催 佐藤准教授
「生態系サービスと農業」

環境を「考える」

山形大学から社会へ伝える
「環境コミュニケーション」

ひらめき☆ときめきサイエンス ～ようこそ大学の研究室へ～

大学で「科研費」(KAKENHI)により行われている最先端の研究成果に、直に見る、聞く、触れることで、科学のおもしろさを感じてもらおうプログラムです。

活性化する蔵王山！研究者の調査について行こう！

平成29年7月30日(日)に「ひらめき☆ときめきサイエンス『活性化する蔵王山 研究者の調査について行こう！』」を開催しました。受付開始から申込みが殺到し、当初の定員を超えての開催となりました。当日は、小・中学生とその保護者9組が参加。普段は体験できない調査とあって、皆目を輝かせて取り組んでいました。参加者からは、「山には行ったことがあるが、踏んでいる石をじっくり見たのは初めてだった。」「様々な発見があった。」「蔵王山、御釜のことをよく知ることができ、とても興味が沸いた。たくさんの思い出ができた。」「本物に触れ合う機会、大学の先生の話聞くことができ、貴重な体験ができた。」などの声が寄せられ、大変好評でした。

■当日の様子

蔵王山は生きています。特に、東北地方太平洋沖地震の後に活性化しており、火山性の地震や山頂付近の盛り上がり、火口湖御釜の水の白濁などがみられています。要注意火山です。今度どうなるかを考えるには、これまでにどのような噴火があったかを調べるのが大事です。本プログラムは、このような状況の中で、「蔵王山の現地調査を行い、火山噴火の歴史を解明すること」を体験することを目的としました。当日は、山形大学理学部の講義室で蔵王山の成り立ち等を説明した後、蔵王山に移動し、以下の3つを行いました。

○蔵王山過去約2千年間の火山灰層の調査

地層を掘り起こしたり、採取したものをマイクروسコープで拡大したりして、噴火のタイプや噴火の歴史を調べました。



火山灰の調査



火山灰をマイクروسコープで観察

○蔵王山の成り立ちの把握

蔵王山の100万年間の歴史の中で、様々な山体が形成されてきた経過を把握しました。また、刈田岳山頂では、約3万年前の爆発的噴火でもたらされた火砕サージ堆積物及び溶岩餅を観察しました。



刈田岳山頂の火砕サージと溶岩餅の調査

○御釜最新の122年前の噴火について

どのような噴火であったのかを、噴出物を基に調査しました。従来の研究では水蒸気噴火によるものと考えられていた噴出物の中に、火山弾や黒曜石が含まれており、それらを観察し、その意味も考えました。

2017年度開催一覧(環境関連)

8月3日(工学部)

未来の光、有機ELを自分で作る

8月5日(理学部)

見て・聞いて・測って納得！放射線

8月5日(工学部)

3Dプリンタで探る音のヒミツ

8月6日(理学部)

のぞいてみよう、生き物のいとなみ

9月16日(農学部)

生物の多様性を考えるー土壌微生物・植物・昆虫間の相互作用ー

環境を「考える」

山形大学から社会へ伝える
「環境コミュニケーション」

森の学校

農学部附属やまがたフィールド科学センター
演習林体験型イベント

次代を担う子供たちが四季を通じて森林と出会い、自然の豊かさや美しさ、楽しさや厳しさ等、多様な姿を理解するため、森の木々に咲く花や木の実、また森の中で暮らす鳥や虫などの動物たちの観察や収集、知雪・親雪体験を実施などのプログラムを3回に渡って実施します。

山形大学出版会

山形大学は、「自然と人間の共生」をテーマとし、五つの基本理念に沿って、教育、研究及び地域貢献に全力で取り組み、キラリと光る存在感のある大学を目指しています。そして、その基本理念の一つが「『知』の創造」であり、人類の諸問題を解決するため、山形大学独自の先進的研究を推進しております。山形大学出版会は、このような基本理念に基づき2007年5月9日に設立いたしました。学術図書や一般教養図書などの刊行及び頒布を通して、山形大学の研究とその成果の発表を促進し、我が国の学術、教育及び文化の振興・発展に寄与することを目的としております。

現在、本出版会から出版している本はまだ僅かですが、山形大学の研究に限らず、山形の文化、風習、食などの様々な“山形学”が納められています。

出版会では右に紹介している本以外にも様々な本を出版しています。

2017年度・第二回開催

2017年10月21日（土）に上名川演習林において、本年度2回目となる「森の学校」が開催されました。当日は天候が心配されましたが、小学生13名のほか、鶴岡北高校の生徒3名や学生ボランティアサークル「森の民」を含め33名が参加しました。

今回のプログラムは「秋の森に飛び込んでみよう！」と題し、参加した小学生は、「森の民」の学生による指導のもと、落ち葉でのプール作りや焼き芋作り、赤カブの収穫体験など元気に秋の森での1日を体験しました。



第二回「森の学校」開催状況

2017年度・第三回開催

2018年2月3日（土）に上名川演習林において、本年度3回目となる「森の学校」が開催されました。連日の大雪の合間を縫う好天に恵まれ、小学生16名のほか、鶴岡北高校・酒田西高校の生徒10名や学生ボランティアサークル「森の民」を含め44名が参加し、演習林までの往復は雪上車やスノーモービルを利用してなんとか到着しました。

今回のプログラムは「雪と遊びながら冬の森を体験しよう！」と題し、斜面を利用したそり滑りやスノーモービルでのそり遊び、「森の民」の学生による指導のもとアイス作りなど、時間いっぱい雪を楽しみました。



第三回「森の学校」開催状況



山形県地質図（10万分の1）

山形応用地質研究会・2016年11月初版

地質図は、「その場所の地下にどのような種類の石や地層が分布しているか」を示した地図です。約40数年ぶりに、県民の身近な資料となることをめざして山形県地質図を作成しました。4地域セットは、庄内、最上、村山、置賜の4地域に分けたA1サイズの地質図と説明書1冊。地域別売りは、地質図1枚と説明書1冊です。地質図では、4地域ごとに既存の地層名が層序表で整理され、最新の情報に基づき色区分されています。

説明書（4地域セット、地域別売りとも共通）では、はじめに山形県の地質学的な生い立ちが解説され、地質各説で4地域ごとの地質の記載（各地層の模式地、層厚、分布、岩相、化石、年代等）がまとめられています。

地質や地盤の調査にたずさわる方、大地の生い立ちを調べる理科教育などで、地域の地質の基礎資料としてご活用ください。



森のひみつ 木々のささやき -ふつうの人が森へ行く日-

小山浩正・平智・2016年3月初版

「もっと気楽に、ふつうに、森へかけてほしい」山形大学農学部の教授らが、森を身近に感じてもらうために綴った森の本。「なぜ、今年のブナは実がならないの?」「紅葉はなぜ赤い?」など、森のしくみや不思議を、独自の視点でわかりやすく解説。本を読み終えたアナタは、なんだか森へ行きたくなること間違いなし!